



中学生が職場を体験 ～キャリア・スタート・ウィーク～

6月16日～20日の間、市内4校の中学2年生が、123の事業所で職場体験学習を行いました。

広島県栽培漁業協会では、竹原中学校から5人の生徒が、甲殻類と魚の2班に分かれて、職員の人に教わりながら、出荷作業、大きさとともに水槽に分ける選別作業、餌やりなどの作業を積極的に行っていました。

「いろんな海洋生物が見られて楽しい。」

「思っていたよりもずっと大変だけど頑張ります。」などの感想を話してくれました。

「将来のこと」、「働くこと」について、考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。



6月7日、市内で、「湯崎英彦の地域之宝チャレンジ・トーク」が開催されました。

湯崎知事は、午前中、市内を現地視察。忠海床浦で夕方から開催される「ゆかた祭り」の会場を訪れ、準備作業を手伝いました。「中央こども園」では、食育の人形劇を園児・保護者と一緒に鑑賞しました。

午後は、市民4人との意見交換会が行われ、様々な分野で活躍する人たちが自分たちで感じる竹原の住みよさや課題、さらには広島県への提案などを、知事へ伝えました。

東野公民館長の清本美穂さんは、公民館活動を通して豊かな地域づくりへの挑戦を発表しました。農事組合法人「サンファール」



湯崎英彦の宝探し 「チャレンジ・トーク」

「ムおなし」の渡橋昭二郎さんは、地域の活性化につながる活動や市外の人たちとの交流について発表しました。

また、県立広島中学校1年生の相澤健太さんは、小学校5年生の時に、JAXAの人とミニロケットを飛ばした体験から将来の夢に向けての思いを発表しました。竹原中学校3年生の石崎菜々美さんは、相撲を通じて成長できたことを発表し、知事との相撲対決で、見事勝利を収めると会場から盛大な拍手が沸き起こりました。4人の発表を終え、知事は、

「思ったことを実際にやってみる。その積み重ねが大きな力を生むんだと改めて感じました。」と、コメントしました。



歯の健康を考える ～歯っぴーライフ～



6月7日、保健センターで「歯っぴーライフ」が開催されました。

「8020表彰」では、80歳で歯が20本以上ある26人が表彰され、「はつらつ家族表彰」では、昨年度の3歳児健診でむし歯がない親子5組が表彰されました。表彰後には、歯科健診、歯科相談、フッ素塗布などが行われ、改めて歯の健康について考える良い機会となりました。



夏の装い ゆかた祭り

6月7日、忠海床浦の本立寺でゆかた祭りが開催されました。たくさんの方がゆかたで来場し、グルメブースやゆかたコンテスト、バンド演奏などを楽しみました。ゆかたコンテストで、参加者が自慢のゆかたを披露し、決めポーズを取ると会場は笑顔とカメラのフラッシュに包まれました。



元気いっぱい！田植え体験

6月8日、小梨町と下野町で、田植え体験が行われました。小梨町では、約40人が泥んこになりながら「かぐやパンダ」の田んぼアートを体験。下野町では、約30人で4種類の雑穀米の稲を植えました。収穫の秋が楽しみです。



笑顔あふれる ふれあい運動会

6月8日、バンブー体育館で、ふれあい運動会が開催されました。市内に住む障害のある人や福祉団体、ボランティアなど約200人が参加し、リレーやパン食い競争などを楽しみました。力を合わせて、笑顔で頑張るみなさんの姿に、会場からは温かい声援と拍手が送られました。



アットホームなおもてなし おなしホテルまつり

6月14日、小梨スポーツ広場で、第6回ホテルまつりが開催されました。手作りのポン菓子のプレゼント、オカリナ演奏、ビンゴゲームなどで、来場者をあたたかくもてなしました。暗くなるとホテル鑑賞がスタート。ホテルの幻想的な光を楽しみました。



チャレンジデー2014にご協力ありがとうございました



5月28日、全国各地でチャレンジデー2014が開催されました。

チャレンジデーとは、「スポーツの力で日本を元気に」というスローガンのもと、全国で一斉に開催される住民参加型のスポーツイベントで、市内で15分以上継続して運動した人の参加率を対戦相手の自治体（今年対戦相手は北海道なよろ名寄市）と競うものです。

今年のチャレンジデーでは、市内の学校、職場などで、多くの人に参加しました。市の職員も終業後、市民館で、ラジオ体操やストレッチなど15分程度の運動をして汗を流しました。

残念ながら対戦相手の北海道なよろ名寄市（参加率62.2%）には負けてしまいましたが、竹原市では過去最高の参加率となる56.2%を達成することができました。

これを機に、スポーツを継続して行いましょう。

来年もチャレンジデーに参加する予定です。ぜひ参加してください。